



当別町と包括連携推進協定を締結【関連記事2ページ】

看護福祉学部長就任にあたって



看護福祉学部長 平 典子

今年度4月1日、看護福祉学部長に就任し8ヶ月が過ぎようとしております。

看護福祉学部は、平成5年開設から、早いもので21年目を迎えました。これまでの歩みを顧みますと、この間、歴代学部長が中心となり、常に前へ前への精神を持ち、何かを「形にする」という方向で学部は運用されてきたように思います。看護学領域では、北海道で初となる大学での基礎教育のスタート、これもまた道内初の大学院前期・後期博士課程の開講、そして道内唯一となる認定看護師研修センターの開設など、初めてづくしの取り組みに多くのエネルギーが注がれました。また、臨床福祉学領域では、人々の健康に広範囲に関わる福祉職の特徴を踏まえ、多様な教育課程を整備してきました。

そして現在、看護学領域では、学部での看護師、保健師の養成に加え、6分野の専門看護師とナースプラクティショナー養成課程を併せ持つ、全国随一の学部として評価を受けるまでになっています。また、臨床福祉学領域では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、福祉に関連する教員、およびスクールソーシャルワーカー養成課程を整え、福祉専門職の幅広い活動を担う人材を輩出できるようになりました。

このように、教育内容や課程を整えてきた状況におい

て、「五代目」学部長として、次に何を為すべきか。それは、新たな企画に着手するというより、この20年で創り上げてきた体制の充実を図り、次の20年を見据えた基礎を作ることではないかと考えます。具体的には、これからの学部・大学院教育を担う教員組織の再編、作り上げてきた課程での教育内容の充実と評価体系の見直し、および輩出した人材との連携を進めていきたいと考えております。次世代の教育を担う人材確保については、両学科とも力を注いでいますが、特に看護学科では、教員の豊かな教育力に定評があり、この教育力を伝承していく教員組織を計画的に再編すべく始動しているところです。また、臨床福祉学科では、多様な教育課程のカリキュラムを整理するとともに、教育支援室の活動および小グループによる学習支援を推進し、学生個々の状況に即した継続的な支援を軌道に乗せたいと考えています。重点課題となっている国家試験合格率は、この取り組みの成果として表れてくるものと考えます。

現在、多くの卒業生が、教員として母校に戻り、また看護と福祉領域の現場でエキスパートとして活躍し私たちを支えてくれています。学部にとってかけがえのない「財産」は、紛れもなく卒業生です。そのことを実感しながら、日々精進して参りたいと思います。

CONTENTS

看護福祉学部長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員紹介	2
当別町と包括連携推進協定を締結	
滝川市と包括連携協定を締結	
台北医学大学から薬学部交換学生が来学	
2013 SCP任命式	3
当別アパート組合との懇談会を開催	
2014年度 入試概要	4
2014年度 入試結果速報	6
サハリン州知事歓迎レセプションに参加	
地区別懇談会を開催	7
学園 同窓会役員懇談会 開催報告	
関東支部主催「講演会・同窓会合同懇談会」/ 道北支部主催「同窓会合同懇談会」を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【看護福祉学部 臨床福祉学科】	9
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS - 10 合同就職相談会開催	
SCRPP日本代表選抜大会で基礎部門	11
第2位に入賞	
TOPICS	12
○「第9回アスタキサンチン・アワード」を受賞	
○IADR Hatton Award最終候補者 (日本代表)に選出	
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員紹介

新規選出教員役職者

平成25年12月1日付

心理科学部 臨床心理学科長 堀内 ゆかり

新任教員

平成25年10月1日付



リハビリテーション科学部 教授
(理学療法学科)

吉田 晋 (よしだ すずむ)

PROFILE

国立仙台病院附属リハビリテーション学院理学療法学科卒業。千葉大学大学院医学薬学府認知行動生理学博士課程修了。亀田メディカルセンターリハビリテーション部副室長、千葉県立保健医療大学健康科学部リハビリテーション学科理学療法専攻准教授等を経て、本学就任。医学博士。

平成25年9月1日付

歯学部 任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))
菅 真希人

平成25年10月8日付

看護学科 助教(看護学科 母子看護学:小児看護学)
畑江 郁子

当別町と包括連携推進協定を締結しました

平成25年11月8日(金)午後2時より、本学当別キャンパスにおいて、当別町宮司正毅町長と新川詔夫学長により、地域振興などを目的とした包括連携推進協定への調印が行われました。

今回締結した協定は、当別町と本学が、互いに有する様々な資源を提供し、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材育成および学術振興に寄与することを目的としています。

これにより、本学は、長年にわたる当別町との協力関係をさらに充実発展させ、本学が有する知的財産、教育研究機能を活用し、保健、

医療、福祉をはじめとする地域活性化の推進等幅広い分野において、社会貢献を図ってまいります。



新川学長挨拶



新川学長(左)宮司町長(右)

滝川市と包括連携協定を締結しました

平成25年11月29日(金)正午より、滝川市役所5階庁議室において、滝川市前田康吉市長と新川詔夫学長により、地域貢献・地域振興発展をめざした包括連携協定への調印が行われました。

今回締結した協定は、滝川市と本学が、保健、医療、福祉、教育分野での相互協力並びに地域社会の形成・発展と人材の育成及び学術振興に寄与することを目的としています。

今後は、滝川市との連携を強め、本学が有する知的財産、教育研究機能を活用し、保健、医療、福祉、教育を始めとする幅広い

分野において、地域貢献、地域発展をめざした官民協力を実現してまいります。



新川学長(左)前田市長(右)



記念撮影(滝川市・北海道医療大学関係者)

台北医学大学から薬学部交換学生が来学しました

台湾・台北医学大学と本学薬学部との合意にもとづく「短期学生交流プログラム」が7月29日(月)から8月23日(金)までの4週間にわたり実施され、台北医学大学薬学部から、3年生の頼 怡紋(ライ イーウェン)さんと2年生の陳 祈叡(チン チジュ)さんの2名の参加学生が来学しました。

本プログラムでは、本学での授業をはじめ、学外の調剤薬局見学実習、薬学部各講座や大学の研究施設での実習などを行いました。なかでも、学内外で行った実習は、二人にとって台湾との違いを実感するもので、特に印象深い体験になったようです。

最終日の8月23日(金)には報告会が開催され、1カ月間の授業や実習などプログラムの成果について、陳君は英語で頼さんは日本語で報

告し、最後に新川学長から本プログラムの修了証明書がそれぞれに手渡されました。本プログラムは本年度スタートしたばかりで試行錯誤の連続でしたが、来春には本学薬学部学生の台北医学大学への派遣も計画されており、相互の学生の受け入れを重ねることにより、息の長い交流事業として充実していくことが期待されます。





2013 SCP (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました

12月4日(水)、2013 Student Campus President (学生キャンパス副学長)任命式が行われました。

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部と今年度からは新たにリハビリテーション科学部から、選挙により選出された学生に対し、新川学長からSCP任命状と専用プレザーが手渡され、激励の言葉を頂きました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施

する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。SCPの多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。

SCP活動状況については、随時、SCPホームページやブログにて報告いたしますので、ぜひともご覧ください。



SCPホームページ <http://scp.hoku-iryu-u.ac.jp/>

2013 各学部SCPよりご挨拶

薬学部 薬学科 1年

森地 彩花 (もりち あやか)



「学部を越えた交わり」

私はボランティア精神や奉仕する精神というのは、医療人を志す者に必要だと思っています。皆さんが興味を持って参加しやすいボランティアなどを提案していきたいと考え、学部を越えた交わり、さまざまな人と関わる環境をつくれるようにしていきたいと思っています。

SCPは、まだ6年目です。改善できる点や成長できる余地は、まだまだたくさんあるはず。皆さんの要望を取り入れ、積極的に反映させ、よりよい大学をつくっていきたくと思っています。

歯学部 歯学科 3年

大平 禎 (おおひら ただし)



「身近な存在へ」

北海道医療大学のSCP制度が始まってから今年で6年目を迎えます。私は、SCPをより身近な存在と捉えて頂く環境づくりを目指します。

去年は様々な場所へ積極的に出向いたこともあり、認知度は上がりましたが、まだそれは十分だとは感じられないからです。

学生の皆様と一緒に大学を変え、よりよい大学生活を送れる環境作りをしてみたいと思いますので、どうぞ皆様よろしくお願いたします。

看護福祉学部 看護学科 1年

高橋 霞奈 (たかはし かな)



「アイデアの実現」

私は、SCP制度を利用して、皆さんの意見を取り入れたアイデアを実現させます。

エコ対策や薬物乱用対策、他学部の学生との交流または、学生と先生方との交流などをもっともっと向上させていきたいです。そして、SCPが皆さんにとって近い存在になるように、皆さんのニーズに応えていきます。どうか宜しくお願いいたします。

心理科学部 言語聴覚療法学科 2年 岩間 花須実 (いわま かすみ)



「チーム医療の一員として」

私は、互いに医療を目指すもの同士、チーム医療の一員として協働、連携できるよう役割分担していくよう努めたいと思います。そして接遇、マナーの大切さ、対人関係能力、コミュニケーション能力を学び、伝達できるよう日々の活動を充実したものにしていきたいと思っています。

初めてのことで不安もありますが、新たなことにチャレンジし、経験したことをみなさんにお伝えできるように努力し、先輩方の伝統や活動を引き継ぎ、より良い大学づくりを目指していきたいと思っています。

リハビリテーション科学部 理学療法学科 1年 滝澤 祐亮 (たきざわ ゆうすけ)



「大きな繋がりを目指して」

私は些細な意見・要望・不満を気軽に話し合えるような関係作りを目指していきたいと思っています。

リハビリテーション科学部は今年度新たに創設されました。先輩がいないという環境下で他学部との繋がりは特に重要であり、心強いものです。他学部との交流が盛んで様々な繋がりのある大学を目指し、そしてその繋がりが、他キャンパス、他大学、また地域の人々へと広がっていくことで皆さんの学生生活はより充実したものになるのではないのでしょうか。

大きな繋がりを目指し積極的に活動していきたいと思っています。

当別アパート組合との懇談会を開催しました (SCP参加)

平成25年10月30日(水)、本学において当別アパート組合との懇談会が開催されました。

当日は当別町在住者を含むSCP(学生キャンパス副学長)3名と、小田薬学部学生部長、森田看護



福祉学部学生部長、高橋リハビリテーション科学部学生部長ほか大学関係者が参加、松岡組合長ほか当別アパート組合の方々十数名と活発な意見交換を行いました。また、懇談会開催前には当別アパート組合の方々が見学されました。

SCPほか本学関係者による積極的かつ具体的な意見に対し、当別アパート組合より、「大変参考になる意見がきけた有意義な懇談会となった。」との言葉を多数いただきました。また「素晴らしい教育環境の中で学生さんたちが学んでいることがよくわかった」との言葉も多数聞かれました。

本学の所在地・当別町には現在、700名を超え



る学生が住んでいます。今回のような大学と地元のアパート組合との交流は全国でも例がなく、こうした交流により、本学学生の住環境の更なる向上につながる貴重な機会となっています。

当別アパート組合のホームページ

※本学学生の声が掲載されています。

<http://www.tobetsu.or.jp/t09/index.html>

2014年度 入試概要

本学独自の「夢つなぎ入試」で経済的支援

経済的理由により大学進学が困難な状況にある受検生を支援するため、初年度入学金の全額と授業料の半額を免除する「夢つなぎ入試」を、一般後期とセンター後期入試において実施します。

「薬学教育・研究者育成奨学生」「福祉・介護人材育成奨学生」「歯学部特待奨学生」は学納金が大幅に減免

臨床福祉学科では、人材不足が社会問題となっている福祉・介護専門職の人材育成を図るため、卒業までの学納金が90万円となる「福祉・介護人材育成奨学生」制度を新たに実施します。一般前期・センター前期A・センター前期B入試において募集します。

また薬学部と歯学部では、将来は薬学教育・研究を支える、もしくは歯科医学・歯科医療の分野をリードするという高い志を持った方を支援するため、卒業までの学納金を国公立大学と同水準とする制度を実施します。「薬学教育・研究者育成奨学生」はセンター前期A入試と一般前期入試において、「歯学部特待奨学生」はセンター前期Aと一般後期Bにおいて募集します。

一般前期入試は「試験日自由選択制」を導入

一般前期入試は1月30日と1月31日の2日間実施しており、両日とも受験できるのでチャンスが2回あります。検定料は両日受験でも1日のみの受験でも同じく3万円。複数学科の併願も可能で、すべての学科を受験しても追加の検定料は一切かかりません。(1日の受験で併願できる学科には制限があります。)

一般前期入試は全国12会場で実施

一般前期入試は札幌、旭川、帯広、北見、函館、青森、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の全国12会場で開催します。

センター利用入試はチャンスが3回

前期A、前期B、後期の3回実施しています。大学独自の個別試験は行わず、本学が指定する科目の大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。

また、同一入試形態内での併願が可能。追加の検定料はかかりません。さらに前期AとBの両方の入試形態に出願することもできます。

一般入試とセンター入試の併願が可能

一般前期入試とセンター前期A・B入試の併願や、一般後期入試とセンター後期入試の併願ができます。

合格のチャンスは合計7回

全学部全学科でAO方式入試、推薦入試(一般推薦入試・指定校特別推薦入試)、一般前期入試、一般後期入試、センター前期A、センター前期B、センター後期の合計7回の入試を実施します(歯学部は一般後期Bを加えた8回)。

歯学部・臨床福祉学科ではAO方式入試Ⅲ期を実施

AO方式入試Ⅲ期の出願受付を2013年12月2日(月)から2014年3月27日(木)まで行っています。

インターネット出願を実施

センター前期B、一般後期、センター後期で実施しています。詳細は、学生募集要項でご確認ください。

■2014年度 北海道医療大学入試概要

	募集定員	薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部	
		薬学科 [募集定員 160名]	歯学科 ※1 [募集定員 80名]	看護学科 [募集定員 100名]	臨床福祉学科 ※1 [募集定員 80名]	臨床心理学科 [募集定員 75名]	言語聴覚療法学科 [募集定員 60名]	理学療法学科 [募集定員 80名]	作業療法学科 [募集定員 40名]
一般前期入試	65名	25名	40名	23名	24名	14名	30名	14名	
試験日	2014年1月30日(木)・2014年1月31日(金) ※2 試験日自由選択制								
合格発表日	2014年2月8日(土)	2014年2月5日(水)	2014年2月8日(土)						
試験会場(受験地)	札幌・旭川・帯広・北見・函館・青森・秋田・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡								
一般後期入試(B ※歯学部のみ)	5名	一般後期4名 一般後期B 5名	5名	5名	4名	4名	4名	2名	
試験日	2014年2月28日(金)	2014年2月28日(金) 一般後期B 2014年3月18日(火)	2014年2月27日(木)						
合格発表日	2014年3月7日(金)	2014年3月7日(金) 一般後期B 2014年3月20日(木)	2014年3月7日(金)						
試験会場(受験地)	札幌・東京・大阪								
センター前期A入試	15名	5名	8名	6名	8名	8名	7名	4名	
試験日	本学による個別試験等は課しません								
合格発表日	2014年2月8日(土)								
センター前期B入試	10名	3名	6名	4名	6名	6名	6名	3名	
試験日	本学による個別試験等は課しません								
合格発表日	2014年2月8日(土)								
センター後期入試	3名	2名	3名	3名	3名	2名	3名	2名	
試験日	本学による個別試験等は課しません								
合格発表日	2014年3月7日(金)								

※1 歯学部・臨床福祉学科はAO方式入試Ⅲ期も実施します。 ※2 一般前期入試の試験日は2日間設定しており、出願時に希望する試験日を登録できます。

■センター利用入試(前期A)の指定教科・科目

学部・学科	教科	科目
薬学部 (薬学科)	外国語	「英語」
	数学	「数学I・A」、「数学II・B」から1科目選択
歯学部 (歯学科)	理科	「化学I」、「生物I」、「物理I」から1科目選択
	外国語	「英語」
看護福祉学部 (看護学科/臨床福祉学科)	数学・国語	「数学I」、「数学I・A」、「数学II」、「数学II・B」、「国語(近代以降の文章)」から1科目選択
心理科学部 (臨床心理学科/言語聴覚療法学科)	理科・地理 歴史・公民	「化学I」、「生物I」、「物理I」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」から1科目選択
リハビリテーション科学部 (理学療法学科/作業療法学科)	理科・地理 歴史・公民	「化学I」、「生物I」、「物理I」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」から1科目選択

【備考】 ●「英語」については、筆記試験のみを対象とし、リスニングテストは含みません。
●薬学部の「数学」「理科」については、センター試験の得点を2倍にして計算します。
●各教科・科目で2科目以上受験した場合は、最も高得点の科目を合否判定に使用します。

■センター利用入試(前期B・後期)の指定教科・科目

学部・学科	教科	科目
薬学部 (薬学科)	外国語・数学	「英語」、「数学I・A」、「数学II・B」から1科目選択
	理科	「化学I」、「生物I」、「物理I」から1科目選択
看護福祉学部 (看護学科/臨床福祉学科)	外国語・数学・国語	「英語」、「数学I」、「数学I・A」、「数学II」、「数学II・B」、「国語(近代以降の文章)」から1科目選択
心理科学部 (臨床心理学科/言語聴覚療法学科)	理科・地理 歴史・公民	「化学I」、「生物I」、「物理I」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」から1科目選択
リハビリテーション科学部 (理学療法学科/作業療法学科)	理科・地理 歴史・公民	「化学I」、「生物I」、「物理I」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」から1科目選択

【備考】 ●「英語」については、筆記試験のみを対象とし、リスニングテストは含みません。
●「英語」以外の科目は、センター試験の得点を2倍にして計算します。
●各教科・科目で2科目以上受験した場合は、最も高得点の科目を合否判定に使用します。

2014年度

歯科衛生士 試験概要

AO方式入試エントリー受付中。各入試の試験会場は道内各地。

本年度も歯科衛生士専門学校では、AO方式入試においてエントリーを受け付けます。学科試験は行わず、エントリー時の面接と出願により可否を判定します。一般前期Aは札幌・帯広・北見・函館の4会場、一般前期Bは札幌・旭川・帯広・北見・函館の5会場で実施します。

■2014年度 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校入学試験概要

	AO方式入試	一般前期入試(B日程)	一般後期入試
募集定員	20名	5名	3名
試験日	エントリーシート提出後、面接を実施	2014年1月31日(金)	2014年2月28日(金)
合格発表日	出願受付後10日以内に通知	2014年2月5日(水)	2014年3月7日(金)
試験会場	本校(当別キャンパス)他	札幌(札幌コンベンションセンター)・旭川・帯広・北見・函館	札幌(札幌サテライトキャンパス)

2014年度

編入学 試験概要

すべての学科で、編入学生を受け入れています。

本学は、一般の入学試験とは別に、専修学校や短期大学を卒業した方(卒業見込み者含む)、または大学在学中(2年以上、62単位以上修得)の方、さらに一度社会に出たけれども専門知識や能力をより高めたいと考えている方等を対象に、2年次、3年次編入学試験を実施しています。一般選抜のほかに、社会人特別選抜も実施しています。

■2014年度 北海道医療大学編入学試験概要(II期)

募集定員	薬学部 (3年次編入)	歯学部 (2年次編入)	歯学部 (3年次編入)	看護福祉学部 (3年次編入)		心理科学部 (3年次編入)		リハビリテーション科学部 (2年次編入)	
	●薬学科	●歯学科	●歯学科	●看護学科	●臨床福祉学科	●臨床心理学科	●言語聴覚療学科	●理学療法学科	●作業療法学科
募集定員	3名	若干名	若干名	3名	3名	若干名	3名	2名	2名
試験日	2014年1月31日(金)			2014年1月30日(木)					
合格発表日	2014年2月8日(土)								
試験会場	札幌・東京・大阪								

2014年度

大学院入学 試験概要

各研究科とも、一般入試と社会人入試を実施。

本学の大学院には、薬学・歯学・看護福祉学・心理科学・リハビリテーション科学の5研究科があり、すべての研究科において一般入試と社会人入試があります。また、歯学研究科では「研究コース」に加え「認定医・専門医養成コース」も設置。看護学専攻修士課程では、専門看護師(CNS)、ナースプラクティショナー(NP)の教育課程も設置しています。

■2014年度 北海道医療大学大学院入学試験概要

	薬学研究科	歯学研究科	看護福祉学研究科	心理科学研究科	リハビリテーション科学研究科	
	●生命薬科学専攻[修士課程] ●薬学専攻[博士課程]	●歯学専攻 ※1[研究コース/認定医・専門医養成コース]	●看護学専攻 ●臨床福祉学専攻	●臨床心理学専攻 ●言語聴覚学専攻	●リハビリテーション科学専攻	
修士課程 第2回	募集定員	一般入試：若干名(社会人を含む) 社会人入試：若干名(一般を含む)	—	一般入試： 〈看護学〉若干名(社会人を含む) 〈臨床福祉学〉若干名(社会人を含む) 社会人入試： 〈看護学〉若干名(一般を含む) 〈臨床福祉学〉若干名(一般を含む)	一般入試： 〈臨床心理学〉若干名(社会人を含む) 〈言語聴覚学〉2名(社会人を含む) 社会人入試： 〈臨床心理学〉若干名(一般を含む) 〈言語聴覚学〉2名(一般を含む)	一般入試：若干名(社会人を含む) 社会人入試：若干名(一般を含む)
	試験日	2014年1月15日(水)	—	2014年1月21日(火)	2014年1月16日(木)	2014年2月19日(水)
	合格発表日	2014年1月21日(火)	—	2014年1月28日(火)	2014年1月23日(木)	2014年2月26日(水)
博士課程 第1回	募集定員	—	—	一般入試： 〈看護学〉2名(社会人を含む) 〈臨床福祉学〉2名(社会人を含む)	一般入試： 〈臨床心理学〉2名 〈言語聴覚学〉2名(社会人を含む) 社会人入試： 〈言語聴覚学〉2名(一般を含む)	—
	試験日	—	—	2014年2月10日(月)	2014年2月12日(水)	—
	合格発表日	—	—	2014年2月18日(火)	2014年2月19日(水)	—
	募集定員	一般入試：若干名(社会人を含む) 社会人入試：若干名(一般を含む)	一般入試：4名(社会人を含む) 社会人入試：4名(一般を含む)	—	—	—
	試験日	2014年1月15日(水)	2014年2月12日(水)	—	—	—
	合格発表日	2014年1月21日(火)	2014年2月19日(水)	—	—	—
博士課程 第3回	募集定員	—	一般入試：若干名 社会人入試：若干名	—	—	—
	試験日	—	2014年3月10日(月)	—	—	—
合格発表日	—	2014年3月17日(月)	—	—	—	

【試験会場】薬学研究科・歯学研究科・看護福祉学研究科・リハビリテーション科学研究科は、当別キャンパス、心理科学研究科は札幌あいの里キャンパスで実施します。

※1 研究コースは一般入試および社会人入試、認定医・専門医養成コースは一般入試のみの実施になります。

北海道医療大学

AO方式・一般推薦・指定校特別推薦で志願者は合計448名。

AO方式入試は、全体で205名の志願があり、101名が合格、実質競争倍率は2.0倍となりました。

一方、11月10日(日)の推薦入試は本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で実施。志願者総数は122名(指定校特別推薦除く)で、実質競争倍率は1.6倍でした。

編入学試験は、全体で31名の志願があり、19名が合格、実質競争倍率は1.6倍となりました。編入学Ⅱ期試験は、薬学部と歯学部は1月31日(金)、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部は1月30日(木)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2014年度 編入学試験(I期)結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	社会人	7(7)	3(3)	3(3)	2(2)	1.5(1.5)
	一般		12(6)	11(6)	4(4)	2.8(1.5)
歯学部	一般	若干名(若干名)	7(3)	7(3)	7(3)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	6(6)	0(2)	-(1)	-(1)	-(1.0)
	一般		2(1)	2(1)	2(1)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	社会人	6(6)	0(0)	-(0)	-(0)	-(1.0)
	一般		2(3)	2(3)	2(3)	1.0(1.0)
	指定校		0(0)	-(0)	-(0)	-(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	2(2)	1(0)	1(0)	1(0)	1.0(-)
	一般		0(2)	-(2)	-(1)	-(2.0)
●言語聴覚療法学科	社会人	7(7)	0(1)	-(1)	-(0)	-(1.0)
	一般		2(6)	2(6)	1(5)	2.0(1.2)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	3(-)	1(-)	1(-)	0(-)	-(1.0)
	一般		0(-)	-(1)	-(1)	-(1.0)
●作業療法学科	社会人	3(-)	1(-)	1(-)	0(-)	-(1.0)
	一般		0(-)	-(1)	-(1)	-(1.0)
合計			34(28)	31(27)	30(26)	1.9(2.0)

■2014年度 AO方式入試・推薦入試結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	
薬学部	AO方式	17(17)	47(47)	47(47)	26(29)	1.8(1.6)	
	一般推薦	20(20)	24(28)	24(28)	20(20)	1.2(1.4)	
	指定校特別推薦	25(25)	47(41)	47(41)	47(41)	1.0(1.0)	
歯学部	AO方式	20(20)	9(14)	9(14)	9(14)	1.0(1.0)	
	一般推薦	8(8)	1(0)	1(0)	1(0)	1.0(-)	
	指定校特別推薦	8(8)	0(2)	-(2)	-(2)	-(1.0)	
看護福祉学部 ●看護学科	AO方式	6(6)	37(54)	37(54)	10(10)	3.7(5.4)	
	一般推薦	16(16)	44(47)	44(47)	21(18)	2.1(2.6)	
	指定校特別推薦	16(16)	28(31)	28(31)	28(31)	1.0(1.0)	
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	4(19)	4(19)	4(18)	1.0(1.1)	
	一般推薦	10(10)	0(0)	-(0)	-(0)	-(1.0)	
	指定校特別推薦	14(14)	9(21)	9(21)	9(21)	1.0(1.0)	
心理科学部 ●臨床心理学科	AO方式	10(5)	19(15)	19(15)	16(9)	1.2(1.7)	
	一般推薦	10(12)	5(13)	5(13)	4(12)	1.3(1.1)	
	指定校特別推薦	10(8)	8(10)	8(10)	8(10)	1.0(1.0)	
●言語聴覚療法学科	AO方式	12(12)	18(24)	18(24)	15(15)	1.2(1.6)	
	一般推薦	7(7)	5(9)	5(9)	4(9)	1.3(1.0)	
	指定校特別推薦	7(7)	20(12)	20(12)	20(12)	1.0(1.0)	
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	AO方式	10(16)	47(60)	47(60)	13(19)	3.6(3.2)	
	一般推薦	10(16)	30(54)	30(54)	20(20)	1.5(2.7)	
	指定校特別推薦	10(-)	7(-)	7(-)	7(-)	1.0(-)	
●作業療法学科	AO方式	5(8)	24(12)	24(12)	8(8)	3.0(1.3)	
	一般推薦	5(9)	13(14)	13(14)	8(10)	1.6(1.4)	
	指定校特別推薦	5(-)	2(-)	2(-)	2(-)	1.0(-)	
合計	AO方式	95(99)	205(245)	205(245)	101(122)	2.0(2.0)	
	一般推薦	86(98)	122(165)	122(165)	78(89)	1.6(1.9)	
	指定校特別推薦	95(78)	121(117)	121(117)	121(117)	1.0(1.0)	
			276(275)	448(527)	448(527)	300(328)	1.5(1.6)

歯学部附属 歯科衛生士専門学校

AO方式入試に43名の受験。

本年度、AO方式入試には現在までのところ43名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。また、推薦入試では2名が志願し、合格しました。一般前期入試(B日程)は、1月31日(金)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

■2014年度 AO方式入試・推薦入試 入試結果 ()内は前年度実績

学科名	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	AO方式	20(20)	43(43)	43(42)	43(42)	1.0(1.0)
	推薦入試	17(17)	2(3)	2(3)	2(3)	1.0(1.0)

サハリン州知事歓迎レセプションに 茶道部とYOSAKOIソーラン祭り部が参加しました

11月20日、札幌市内で「北海道とサハリン州との友好経済協力に関する提携15周年記念・サハリン州知事歓迎レセプション」が開催されました。同レセプションには本学から黒澤副学長、斎藤歯学部部長、千葉歯学部教授、栗田常務理事が出席したほか、北海道からの依頼により茶道部とYOSAKOIソーラン祭り部が参加しました。

黒澤副学長ほか本学出席者は北海道知事やサハリン州の方々との情報交換を行い、茶道部はサハリン州知事をはじめ50名からなるサハリン州ビジネスミッション団や北海道各経済団体の方々への抹茶のサービス、またYOSAKOI

ソーラン祭り部はアトラクションで演舞を披露しました。

茶道部のブースにはたくさんロシアの方々を訪れ、ロシア側報道陣の取材を受け、またYOSAKOIソーラン祭り部の演舞には出席者から盛んな拍手と声援が送られるなど、本学学生の心からのおもてなしの姿勢に日本側・ロシア側双方から感謝と激励の声が多数寄せられました。

北海道医療大学はこれからも地域への貢献と、学術研究・医療・福祉の国際化に迅速に対応すべく、更なる国際交流を推進いたします。



地区別懇談会を開催しました。 多数のご出席ありがとうございました。

平成25年度の地区別懇談会は、10月19日(土)から11月17日(日)までの期間、全国15地区16会場(右表参照)で開催し、723組1,011名のご父母の皆様がご出席くださいました。(出席率22.1%)

各会場では、総会(後援会・学園役員挨拶/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に、担当教員との

熱心な個別相談が行われていました。

後援会は、学生のサポート役、ご父母の皆様と卒業生、学園とを結びパイプ役として、また、学園の牽引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援を柱とし、一昨年の東日本大震災に係る「被災地出身学生に対する帰省旅費補助」をはじめとする学生への様々な支援により、

学生生活における快適な環境をつくることを大きな

目的として事業活動を推進しております。

地区別懇談会は、後援会が「ご父母の皆様と学園を繋ぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



総会(札幌会場)



学部別懇談会(札幌会場)

開催地	開催日	出席者数	
		大学・大学院	専門学校
札幌	11月17日(日)	309組	17組
釧路	10月19日(土)	43組	5組
帯広	10月20日(日)	43組	5組
旭川	11月2日(土)	54組	1組
北見	11月3日(日)	30組	1組
函館	10月20日(日)	44組	3組
青森	10月27日(日)	31組	—
盛岡	10月26日(土)	14組	—
仙台	10月19日(土)	21組	—
東京	11月3日(日)	35組	—
名古屋	11月4日(月)	11組	1組
大阪	10月27日(日)	21組	—
広島	10月26日(土)	12組	—
福岡	11月3日(日)	11組	—
那覇	11月2日(土)	11組	—
小計		690組	33組
合計		723組	

平成25年度 学園・同窓会 役員懇談会 開催報告

11月25日(月)午後7時より京王プラザホテル札幌において平成25年度学園・同窓会役員懇談会を開催しました。

懇談会には、各同窓会役員等23名、並びに学園より東郷理事長、新川学長、黒澤副学長、栗田常務理事、大野理事、小野理事、和田薬学部長、斎藤歯学部長、三國看護福祉学部看護学科長、中野心理科学部長、泉リハビリテーション科学部長、東城歯学部附属歯科衛生士専門学校長、及び事務局7名の総勢42名が出席しました。

懇談会は、理事長、学長による挨拶の後、学園より入試概要、学園動向、学部・学校現況の報告、また各同窓会より活動状況のご報告がありました。

各同窓会と学園の間の強固かつ盤石な協働体制及び各同窓会相互の横断的な交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



東郷理事長挨拶



各同窓会から現況報告

学校法人東日本学園後援会

関東支部主催「講演会・同窓会合同懇談会」/ 道北支部主催「同窓会合同懇談会」 を開催しました。

11月2日(土)午後4時より、渋谷エクセルホテル東急において後援会関東支部主催の「講演会・同窓会合同懇談会」が開催されました。

当日は、関東支部在住の在学生ご父母(1号会員)及び各学部の卒業生・修了生(2号会員)40名、また学園および大学より東郷理事長、新川学長、佐藤元彦客員教授をはじめ各学部の教員および事務局職員、後援会より西野関東支部長らが出席されました。

東郷理事長による「少子化時代の私学経営」「アベノミクスとは何か」と題した講演が行われ、その後の懇談会では、ご父母や卒業生と教員の懇談が終始和やかに続いていました。

また、11月3日(日)午後7時より、北見ホテル黒部において後援会道北支部主催「同窓会合同懇談会」が開催されました。

当日は、道北支部オホーツク地方在住の卒業生20名、学園および大学より大野理事、小野理事、各学部教員及び事務局職員、後援会より村上理事、野田道北支部副支部長らが出席されました。

懇談会では、出席教員の自己紹介や学園概況の説明が行われ、卒業生の方々は懐かしい気持ちとともに、現在の大学の状況にも目を向けておられました。



私の学生時代



副学長 黒澤 隆夫

私が大学に入学した年は昭和44年である。ベトナム反戦運動と学生運動が華やかな時期であり、「ああ…、あの年か」と思う方がおられると思う。大学紛争のうねりが全国的に頂点に達した時でもあり、その象徴的事件である安田講堂事件が起こった年である。その結果、東大の入学試験が中止となり、他大学にも大きく影響が出た年であった。そのような中、私は北海道大学理類に入学したが、学生運動が吹き荒れ、なんとなく入学式はあったような気がする(今考えてもあったかわからない)、4月から講義が全く行われなかった。何時、講義が開始されるか全く見通しが立たず、私は田舎から出てき



台湾、スイカ屋の前で

たばかりで周りの雰囲気にもついていけず、なんとなく焦りを覚えていたように思える。

当時の私の趣味は、「蝶の収集」であった。ある日、突然、何も考えずにこの機会を利用して(今でしよう!ということ)台湾へと採集旅行へと旅立つこととした。善は急げと、とにかく私にとっては初の海外旅行でもあり、パスポートを取って早く(アルバイトをしてためていたお金で何とかなったような気がする)ということとで4月半ばに日本を旅立った。現地でも何も考えずに採集に身を投じることができ、本当に心からリフレッシュできた時間であった。

しかしながら、因果応報、帰国してみると既に一部の講義が再開されており、単位を取ることができず、留年が待ち受けていた。当時何とか試験を受けさせてほしいと駆けずり回った。化学の片山明石教授のところをお願いしたときに、「先生は頭が固い」といったら、「私の名前は“メイセキ”です」といわれて、「うまいことかえすな」と妙に納得して、じたばたするのをやめた



台湾 梨山 後方は次高山

覚えがある。

学部移行時の成績は、700番ぐらいだったと思うが、何とか薬学部に移行できた(希望学部には移行することはできなかった)。薬学部に移行後は米光先生が主宰する植物薬品化学講座で札幌オリンピックを見ながら、真面目に有機化学の勉強をした。当時私に直接教えてくれた先生は、及川先生。残念ながら、若くして亡くなられてしまったのだが、将来を嘱望された天才ともいべき先生で、多くのことを習い、私にとっては常に目標となる先生であった。

修士課程修了後、本学に赴任する藤間貞彦先生について薬学部薬品分析化学講座の助手として昭和51年に赴任し、それ以来、38年間本学の歩みに沿って、何とかここまでやってこることができ、どうやら定年を本学でむかえることになりそうだ。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は黒澤隆夫副学長と石川秀也教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代



看護福祉学部
臨床福祉学科

教授 石川 秀也

ちょうど10年前に、本欄に同じタイトルで拙稿をご紹介いただいたことがあります。読み返してみますと、(自分でいうのもなんですが)正直者の私らしく、あまり良い学生ではなかったことを素直に告白しておりました。

その頃、一生懸命に取り組んでいたのはアルバイトでありました。40年以上前のことですが、男子アルバイトの賃金が良かったのは、家庭教師か肉体労働系でありました。私のような者に家庭教師が務まるはずがなく、自然と肉体労働系の仕事を選択いたしました。いろいろな仕事をさせていただきまして、いわゆる土木作業もやりましたし、電気工事も経験しました。電気工事といっても建物内ではなく、たとえば宮の森ジャンプ競技場の建設に際して

は、飛型審判員がいるジャッジタワーなどと、ジャンプ台の最高地点とを直径5~6cmもあるケーブルでつなぐ作業を経験しました。このケーブル、長さはどのくらいあるのか分かりませんが、とにかく2m以上もある巨大リールに巻きつけられており、そのリールを5~6人で斜面を押し上げていくといった大変な作業でした。

そんな中で、大学2年生から卒業時まで、もっとも長く続きましたのが「塗装業」でした。これも“ペンキ塗り”といったことではなく、大きなビルの吹付け塗装が主な仕事でありました。足場(ビケと呼ばれます)に上り、まず塗装しない窓や入口などの部分の養生(ビニールをガムテープで貼り付ける作業です)、下地塗り、本塗装といった手順を踏みます。その都度、塗料を運んだり、コンプレッサーの調整をしたりといった仕事でしたが、私にとっては楽しい作業でありました。ただ、高所での作業ですので、危険であったことは間違いありません。実

際に、一緒に働いていた人が足場を3段くらい落ちてしまい、命には別条ありませんでしたが、ケガを負ってしまった人もいました。アルバイトといっても、私は長く続けさせていただきましましたので、職人さんたちと同じような仕事をさせていただきましたし、車を1台預けられ、運転手もしました。なんと、その会社(下請けの小さな会社です)の就業規則の作成を命じられたこともあります。

本学の学生さんも、いろいろなアルバイトをなさっていますね。アルバイトは、単にお金を稼ぐということだけでなく、広い意味での人生勉強にもなると思います。学業や健康に影響しない範囲で、素晴らしい経験をなさってください。

OB訪問

在学中に没頭したボランティア活動がきっかけで、大学院修了後、3名の仲間とNPO法人を設立した大原さん。現在は10の拠点を展開し、60名以上の職員とともに“地域を創る”多彩な活動を行う若きリーダーを紹介します。

社会福祉法人 ゆうゆう 理事長
NPO法人 ノーマライゼーションセンター によきによき 理事長
大原 裕介さん

(看護福祉学部医療福祉学科医療福祉専攻(現:臨床福祉学科)2003年卒業、大学院看護福祉学研究科臨床福祉・心理学専攻(現:臨床福祉専攻)修士課程2005年修了)



ごちゃまぜの地域をつくる。

今回の訪問先は、JR石狩当別駅から徒歩圏内にある「共生型地域オープンサロン ガーデン」。大原さんが理事長を務めるNPO法人「ノーマライゼーションセンター によきによき」の拠点のひとつです。道道81号線沿いにあったのは、福祉施設のイメージを覆すようなログハウス調のモダンな建物。エントランスへ向かっていくと、エプロンとキャップを着用したスタッフの方があたたかい笑顔で迎えてくださいました。

「ガーデン」は、障がいのある方々がサービスを行うカフェです。大原さんがめざしたのは、障がいのある方々の就労支援だけではなく、障がいの有無や世代を超えた交流が生まれる「ごちゃまぜ」の地域をつくること。「私自身、学生時代に障がいのある方と接し、心にゆとりが生まれていくことを実感しました。そして、人のいいところに目を向けられるようになりました。違いのある人たちが尊重し合い一緒に暮らせる地域をつくることで、世界はもっと豊かになると思います」。

ボランティアからNPO設立へ。

大原さんを含む医療大の卒業生4名が当別町にNPO法人を設立したのは2005年。在学中から取り組んでいた学生ボランティアの活動拠点としてスタートしました。現在は当別



「共生型地域オープンサロン ガーデン」では、コーヒーに加えドーナツや駄菓子も販売。子どもからお年寄りまでが集まっています。接客はもちろん、ドーナツづくりも障がいのある方々の業務です。



拠点のひとつである「共生型地域福祉ターミナル みんなのうた」では、障害の有無や世代を超えた交流をめざし、子どもの就業体験や地域住民のボランティア活動のコーディネートを行っています。

町と江別市で10の拠点を運営。福祉専門職に加え、料理人、パティシエ、グラフィックデザイナーなど多彩な業種に及ぶ60名以上の職員が勤務しています。

活動理念は、「地域を創る」。あらゆる人があらゆる人に手を差し伸べるノーマルな地域をめざし、障がい者の自立支援、子育て支援、高齢者の共生型地域生活支援など幅広い事業を展開しています。また、本学の実習施設としても協力し、学生ボランティアの受け入れも随時行っています。

理事長としての主な業務内容は、福祉サービスの仕組み自体をつくることです。大切にしているのは、「誰がどのように困っていて、その人をどのように救いたいのか」というリアリティのあるストーリーを描くこと。そして、「その上で、地域のニーズを把握することが欠かせません」。ケアを必要とする人と地域の両方の視点から生み出される大原さんの活動は、当別町や江別市はもちろん、全国で多くの共感者を獲得しています。

「小さな街の活動が、世界を大きく変えるかもしれません」。そんな思いで、大原さんは福祉サービスの新しい仕組みをつくり続けています。

救いたい人が、いる限り。

現在、大原さんは本学非常勤講師として、看護福祉学部、薬学部での講義も担当。福祉の理念やボランティア意義を、後輩たちに伝えています。「高齢化が進むこれからの時代、どんな職業に就いたとしても福祉の視点が必要です。私の話を聞いて、“福祉って、思っていた以上におもしろいかも”とってもらいたいですね」。

また、全国でフォーラム活動を行いながら現場の声を政策提言にしていくなかでNPO法人全国地域生活支援ネットワークの代表理事や、社会保障制度全般について審議・調査する厚生労働省社会保障審議会委員としても活動しています。

「今までの10年は、福祉制度が適用になる方を援助し、地域の方々に“大原さんのところに通う人たちはしあわせだ”と言っていただけになりました。しかし、現状に満足はしていません。これからの10年は、現行の制度では福祉サービスが適用されない問題にも取り組みます」。障がいのある方々が地域のなかで暮らせる環境がなかった10年前の当別町を変えた大原さんの新たな挑戦は、すでにはじまっています。



社会福祉法人「ゆうゆう」とNPO法人「ノーマライゼーションセンター によきによき」の各拠点で勤務する職員。大原さん(写真中央)を含め、この日に集まっていた7名は全員が本学臨床福祉学科の卒業生です。

文化週間

「文化週間を振り返って」

文化局執行部 倉本 圭輔 (看護福祉学部 2年)

文化週間とは、文化局に所属する部活やサークルが展示発表や演奏会、活動の公開などを通して、学生や教職員など多くの方々にそれぞれの団体が行っている活動内容を知っていただくために、毎年開催している企画です。今年は11/5(火)～11/8(金)にかけて文化週間を開催しました。

弦楽部や吹奏楽団による演奏会やダン

ス同好会によるダンスイベント、美術部や写真部の展覧会などそれぞれの部活・サークルが個性を生かして、様々な発表を行い、今年も昨年以上に文化週間がとて盛り上がりました。文化局所属団体の多くは、皆さんに活動を披露する場が少ないので今後も文化週間を通して活動の成果を知って頂ければと思います。

最後になりましたが、文化週間にご参加・



軽音楽部

ご協力して下さった皆様、どうもありがとうございました。



カフェ同好会



吹奏楽団

■開催内容

ESSクラブ	英語での映画上映
SF研究会	部誌配布
軽音部	文化週間ライブ
弦楽部	弦楽部コンサート
茶道部	和菓子とお茶の無料提供
歯科医療問題研究会	活動報告会
写真部	写真展覧会
植物研究部	ハーブについて
美術部	美術部作品展覧会
北海道医療大学吹奏楽団	吹奏楽団コンサート
YOSAKOIソーラン祭り部	過年と今年の演舞上映
あいの里ダンス同好会(HAPPILY)	ダンスイベント
アカペラ同好会	ハロウィンの衣装をしてアカペラコンサート
演劇サークル劇団「りよだ」	演劇
カフェ同好会	コーヒー・紅茶の無料提供
当別ダンス同好会(PRANCY)	ダンスイベント
アクションメソッド研究会	当事者研究

2013年度

北海道医療大学合同就職相談会開催

10月25日(金)、臨床福祉学科・臨床心理学科・言語聴覚療法学科学生を対象、12月5日(木)、薬学部学生を対象とした「2013年度学内合同就職相談会」が開催されました。

両日ともに全国各地の病院・施設・企業・公務等団体から、各部門責任者・人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就職に関する説明や相談をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、相談を行うなど、終始賑わいをみせていました。

また、会場内には専門のインストラクターを招き、面接対策や公務員試験対策コーナー等も

設け、そちらでも積極的な質疑応答の姿が多数みられました。

本学では各学部ごとにほぼ毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしております。本学各学部・学科に関わる職種の求人お申し込みについては本学ホームページをご参照ください。



10月25日 【参加団体】 80団体

- 病院:37病院 ●一般企業:7社
- 社会福祉施設:32団体 ●公的機関:4団体

12月5日 【参加団体】 134団体

- 病院:51病院 ●薬局:69社
- 製薬・卸等:9社 ●行政:5団体

クラブ

今年もたくさんのクラブが各大会で大健闘!

■2013年度クラブ戦績

団体名	月日	大会名	参加種目	戦績
準硬式野球部	6/18~6/24	平成25年度 北海道地区大学準硬式野球選手権大会	—	準優勝
女子バスケットボール部	7/5~7/7	第60回 北海道地区大学体育大会	女子	3位
バドミントン部	7/6~7/7	第60回 北海道地区大学体育大会	男子	準優勝
			女子	優勝
陸上競技部	8/3	第45回 全日本歯科学生総合体育大会	男子やり投げ	優勝
			男子円盤投げ	準優勝
			男子砲丸投げ	準優勝
			男子1500m	準優勝
			男子5000m	優勝(3連覇)
剣道部	8/11	第32回 全日本薬学生剣道大会	男子団体	3位
			女子団体	準優勝
サッカー部	10/14	北海道学生サッカーリーグ	3部リーグ	優勝(入替戦に勝利・2部昇格)
ラグビー部	6/29~7/7	第43回 北海道選手権大会	Dブロック	準優勝(Cブロックに進出)



女子バドミントン部北海道地区大学体育大会優勝



陸上競技部男子5000m優勝 大井さん(3連覇)

球技大会

「白熱した5日間」

松原 結 (薬学部1年)

今年の秋季大会は11月11日(月)~11月15日(金)の5日間行われました。今年から新設されたリハビリテーション科学部の学生も多く参加

し、活気あふれる大会となりました。

11日・12日はバスケットボール大会が行われました。男子リーグのみの開催となりましたが、躍動感溢れるプレーで会場を魅了していました。

12日・13日はバレーボール大会が行われ、ボールをつなぐチームワークと迫力のあるアタックに会場は大いに盛り上がっていました。

14日・15日に行われたフットサル大会では、試合時間に決着がつかず、PK戦まで持ち込む展開が多く、白熱した試合が繰り返されていました。また、土壇場で同点に追いつく試合もあり最後まで諦めずに勝ちにいく姿勢が印象的でした。

外では雪が降りしきる中、熱い闘いを繰り返した選手の皆さん、お疲れ様でした。また、今回の秋季大会開催にあたりご協力頂いた皆さま、本当にありがとうございました。



平成25年度(第19回)

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP) 日本代表選抜大会で本学が基礎部門第2位に入賞しました

第19回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会が、8月21日、日本歯科医師会館にて開催され、本学歯学部4年生のグループ(清水綾さん、岡本龍生さん、平木大地さん、柳瀬舜佑さん)が基礎部門の

第2位になりました。これは、世界各国の歯学部学生が集う米国で開催されるSCRP大会へ参加する日本予選であり、グループによるこれまでの研究成果を英語で発表するものです。本グループは「P.gingivalis由来LPSの長期刺激によるマラッセ上皮細胞のDNAメチル化」のテーマで、ファカルティアドバイザーである安彦善裕教授(臨床口腔病理学)と植原治助教(口腔衛生学)の指導のもと研究を行ってきました。

発表は清水さんが代表で、英語による発表、質疑応答を無難に行い、全国歯科大学・歯学部22校中、見事、基礎部門の2位に輝きました。



左から建部助教、平木くん、井田大学院生、柳瀬くん、清水さん、岡本くん、植原助教



清水綾さん(左)と優勝者の岡山大学歯学部 王碩さん(右)

本学からの参加は今年で11回目になりますが、6回目の上位入賞になります。これは全国でもトップレベルの入賞率であり、今後もこれを継続していくことが期待されます。

北市伸義個体差医療科学センター教授が「第9回アスタキサンチン・アワード」を受賞

9月20日(金)アルカディア市ヶ谷(東京)にて開催されました「第9回アスタキサンチン研究会」において、北市伸義個体差医療科学センター教授(眼科学)が、「第9回アスタキサンチン・アワード」を受賞しました。

同賞は、同研究会会員でその業績が日本のアスタキサンチン研究を代表するもので、同研究会運営あるいは発展に特に顕著な功績の期待される研究者に贈られるものです。

受賞式では青少年の反ドーピング活動のためアジア6カ国訪問の一環で来日中のベン・ジョン

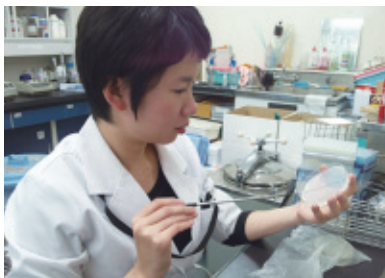
ソン氏(1984年ロサンゼルス五輪銅メダリスト)が特別プレゼンターを務め、賞状が授与されました。

なお、来年は札幌で開催され、北市教授は受賞記念講演を行うこととなります。



本学大学院生が2014年度IADR Hatton Award最終候補者(日本代表)に選出されました

IADR(国際歯科研究学会) Hatton Awardは第10代IADR会長のEdward Hatton博士の功績を称えて設けられた若手研究者を顕彰するための賞で、Junior部門とSenior部門(Basic Research, Clinical/Pre-clinical Research)



からなります。

この度、本学大学院歯学研究所博士課程第3学年の眞島いづみさんは、Senior-Basic Research部門に応募しました。

その結果、これまでの研究成果と共に最新の研究「Autoinducer-2 from *V. tobetsuensis* Influences on Oral Biofilm at Early Stage」が認められ、書類審査(一次選考)を通過して、8名の候補者として選ばれました。

さらに、去る11月18日(月)、東京医科歯科大学で行われたJADR(国際歯科研究学会日本部会)審査委員による二次選考会では、眞島さんは英語による口頭発表会および質疑応答に臨み、見事、日本代表の最終候補者(上位4

名)として選出されました。

本学からIADR Hatton Award最終候補者が選出されるのは初めての快挙であり、審査員の先生方からも極めて高い評価をいただいたとのことでした。これにより、眞島さんにはIADR本部よりIADR Travel Awardが授与されることが既に決定しております。

今後、眞島さんは、世界各国から選出された最終候補者の方々と共に、本選である2014年度IADR(6月末、Cape Town, South Africa)学術大会にて審査を受けることになります。

なお、本選では全ての最終候補者のうち上位2名が受賞者として選出されます。

EDITOR'S NOTE

「洗礼」という言葉には、キリスト教で信者となるための儀式の他に、ある方面にすすむ時必ず受ける最初の経験、という意味がある。新しく何かを始めるとき、またはある集団の一員になるためなどに、避けて通れない試練は多いものだ。

先日、当別へ赴任して、初めての大雪を経験した。関東での雪マークに慣れていて、粉雪が舞う程度と高をくくっていたが、大誤算だった。車には雪が高く積り、革靴の裏に付いた氷により廊下で滑った。未だ準備していなかった、車の雪かき棒、スノーシューズ、長靴、などの冬支度を急いで調達した。自分自身ではアウェーではない、と思っているのだが、北海道民の一員になるための洗礼を受けた気分だった。しかし、誰に聞いても、まだまだこれからだよ、当別はこんなもんじゃないよ、と言われる。これからも、冬の洗礼は続いていくのだろうか?

皆様におかれましては、本格的な寒さに向かう時節、お身体にお気をつけてお過ごしください。

(H.O記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.156

STAFF ● 遠藤 泰 派上 尚也 中山 英二 鏑口 有秀
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 白鳥 亜矢子
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 長原 利明
宮崎 隆志 國見 明美 松本 信也

発行日 ● 2013年12月27日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。